

女性がんヘルスケア外来

「がんサバイバー」とは、がんと診断された方、治療中または、がん治療を終えた方をさす最近の言葉です。医療技術の進歩により、がんは「不治の病」ではなくなり、生存率が向上し、長期生存することも可能な時代になりました。

がん治療である手術、抗がん剤、放射線治療によって、特に閉経前の女性では、卵巣機能が低下し、分泌される女性ホルモン（エストロゲン）が減少する場合があります。エストロゲンは、女性らしさを作る働きだけでなく、皮膚、骨、脳、自律神経の働きにも深く関係しています。エストロゲンの欠乏状態が続くと、次のような症状が起きやすくなります。

更年期障害

- 顔のほてり、のぼせ、異常発汗、めまい

精神神経症状

- うつ、不安、不眠、認知機能の低下

泌尿生殖器症状

- 膣炎、かゆみ、尿もれ、性機能障害

心血管系疾患

- 脂質異常、動脈硬化、高血圧、脳卒中、虚血性心疾患

骨量低下・骨粗鬆症

- 腰痛、脊椎変形、大腿骨骨折

自然閉経した女性に比べ、がん治療により長期間の無月経、または閉経を早く迎えた女性は、上記リスクが高くなることがわかっています。中でも「骨折」「脳卒中」「認知症」は、寝たきりになるきっかけの三大要因として大きな問題となっています。がん治療を乗り越えた後も、その後の人生を豊かに過ごすために、将来につなげる健康管理が重要です。

「女性がんヘルスケア外来」は、女性のQOL（生活の質）の向上と予防医学の視点に立った専門外来です。専門の産婦人科医（女性）が、卵巣欠落症状（更年期様症状）の対策、乳がんのタモキシフェン服用中の子宮体がん検査、骨密度検査などを中心に、原疾患に考慮しながら、可能な治療とサポートを行います。

- ✓ 抗がん剤治療によって月経が止まった、または不規則になった
- ✓ 乳がんの内分泌療法で、月経を止める、あるいは閉経を早める治療を受けた
- ✓ 婦人科手術によって卵巣を摘出し、月経がなくなった
- ✓ がん治療に伴う婦人科的なご相談など



毎週水曜日 14 時～ 中濃厚生病院 産婦人科外来（予約制）

受診予約について

- ◆ 中濃厚生病院 1F 産婦人科外来に直接、またはお電話で受付しています。
電話 0575-22-2211（代表） 平日 14 時～16 時
- ◆ かかりつけ医の紹介状は必須ではありません。その場合は、初診時特定療養費（¥ 2,200）がかかりますので、あらかじめご了承ください。
- ◆ かかりつけ医からの地域連携予約も可能です。紹介状をお持ちください。
- ◆ これまでの病歴がわかるものやお薬手帳をお持ちいただくと、診療がスムーズです。

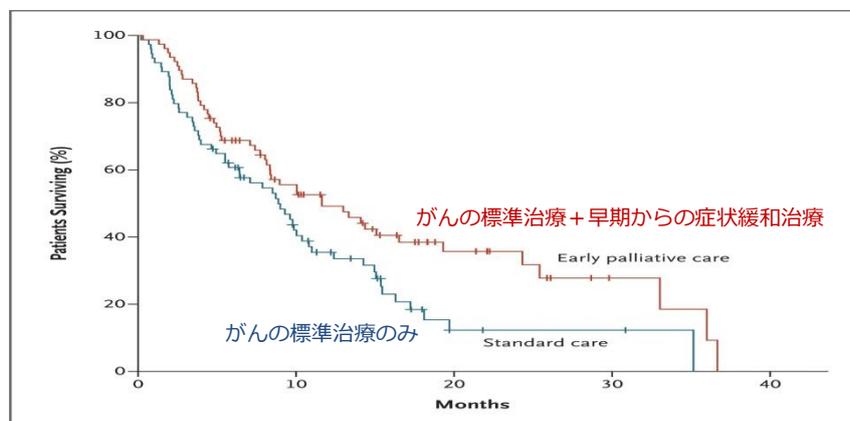
担当医師

産婦人科医師 加藤 順子（かとう じゅんこ）
出身大学 岐阜大学医学部（1998 年卒）
学会資格など 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
乳がん検診超音波検査実施・判定医
母体保護法指定医
臨床研修指導医
岐阜大学医学部非常勤講師

メッセージ

更年期障害は、女性なら誰でも踏む階段であり、その症状や程度は人によってさまざまです。当人にしか分からないそのつらさも病気として扱われることはあまりなく、恥ずかしさもあいまって、人知れず我慢している女性は少なくありません。私自身も8年前に乳がんを発症し、術後抗がん剤やホルモン治療を経験しました。副作用は予想以上で、毎日の生活や仕事に大きな影響を与えるものでした。ホットフラッシュは季節を問わず1日に何十回と起こります。周囲は涼しい顔をしているのに一人だけ滝のように顔から汗が流れます。夜中に暑さで何度も飛び起きます。一旦それがおきると運転や手術中でさえ集中が途切れてしまいます。びしょ濡れになった下着で今度は冷えるため、登山用インナーが高性能で重宝しました。幸い、私は専門家でしたので更年期症状を和らげるあらゆる方法を試めすことができました。今度は自分の経験や専門知識を悩める患者さん達に少しでも還元できればと思い、2020年この専門外来を立ち上げました。

乳がんのピークは40~50歳と他のがん比べて若く、今や9人に1人は発症する時代です。比較的予後のいいがんとはいえ、最近の乳がん治療は5年から10年へと長期化しています。下記のグラフは肺がんについてですが、副作用やがんに伴う諸症状に対して早期から積極的に治療介入を受けたグループは標準治療のみのグループより生存率が高いことを示しています。「がん治療で命が助かったのだから、我慢しなくては」それもいいですが、痛みやつらい症状は実は我慢しない方がいいのです。この外来では、乳腺外科をはじめ他科と連携しながら、漢方薬などを中心に診療しています。患者さんの気持ちに寄り添いながら、よりよい生活が送れるようお手伝いしたいと思っています。些細な症状でもどうぞお気軽にご相談ください。



Jennifer S. Temel, M.D. et al. Early Palliative Care for Patients with Metastatic Non-Small-Cell Lung Cancer

N Engl J Med. 2010 Aug 19;363(8):733-742.